

2月

3 東病棟（内科病棟）



「寄り添う看護」

卒後2年目 柏木 千里

私は入職後2年間、内科病棟で働いています。入職してから患者様に寄り添える看護師になりたいと、日々、経験豊富な先輩方に支えられ頑張っています。

入院される患者様と接する中で、入院という事柄がいかに患者様にとって負担になっているのかを感じてきました。初めての入院ですと、治療にストレスを感じたり、毎日一緒に暮らしていたご家族と離れ離れに生活することに不安を感じたりしている方が多いと感じています。

不安が強く夜間に眠れなくなってしまった患者様を担当した際、お話を聴いても落ち着かれず、この方に寄り添う看護とは何をすべきなのかを考えました。そして夜間ではありましたが、気分転換にと病棟内を車椅子で散歩しませんかと提案し、一緒に病棟内を散歩しました。そうすると患者様から「落ち着いた。もう大丈夫、ありがとう」と言葉を掛けていただきました。その患者様から退院間近の頃「また、あなたと車椅子に乗って散歩したいね」と言って頂きました。その言葉を聴いて、覚えていてくれたこと、自分がしたことが間違っていなかったような気がしてとても嬉しく感じました。

これからも患者さま1人1人に寄り添う看護が提供できるよう、日々努力していきたいと思っています。

